

外来診察

脳と心のドック

予約制

認知症・うつ病の鑑別診断

アルツハイマー型認知症・血管性認知症・うつ病・双極性障害・統合失調症など

外来診察のひとつとして鑑別診断を行います。
保険適用

物忘れの原因は、けして認知症のみとは限りません。

- 最近、ものをよく忘れるようになり「私は呆けているのではないか」と感じる高齢者ご本人やご家族の方。それは認知症（呆け）かも知れませんが、実はうつ病でも似た状態が現れます。
- うつ病などは殆どの場合お薬で改善できます。その鑑別を行うのがこのドックの主たる目的です。当院では同様の症例を数多く経験しております。

078-942-1021 明石土山病院「脳と心のドック」受付まで
平日 午前9:00～午後4:00（土曜 11:30まで）

診察費用 ※検査料・診察費を含む
初診の方の窓口負担金の例

1割負担 75歳以降

約 2,450 円

2割負担 70～74歳

約 4,900 円

3割負担 6～69歳

約 7,300 円

※窓口での自己負担額は所得など条件により異なります。ご自身の医療保険の負担率をご確認下さい。

3種類の検査

光トポグラフィ検査 ※この検査での費用は頂きません

脳の動きを目で見える形でグラフ化し、うつ病や認知症等に現れる特有の波形を見ます。
測定する装置のついた帽子を被って行動した際の、脳内の血流を測定します。髪や頭皮に手を加えたり、また測定中に痛みを伴うような検査ではございません。

光トポグラフィ装置 ▶



MR I 検査

磁気を利用して頭部の断面図を撮影し、脳の腫瘍・萎縮などを画像から確認します。
エックス線を利用するレントゲンと異なり磁気を利用します。放射線被曝の心配もなく、より身体に負担も少なく済みます。開放型ですので圧迫感がなく、閉鎖空間が苦手な方でも検査して頂けます。

MR I 装置 ▶



心理テスト

臨床心理士によるテストを行います。
機器だけではなく、医師による診察時以外での検査にも実際に臨床心理士が向かい合います。

※外来診察時に検査を行います。検査の結果につきましては後日郵送にてご送付させて頂きます。
※診察の内容により、必要がないと医師が判断した検査は行わない場合がございます。



医療法人社団 正仁会

明石土山病院
介護老人保健施設希望
つちやま訪問看護ステーション
宿泊型自立訓練事業所みどり寮
共同生活援助事業所グループホームノア

基本理念

『人間愛に満ちた医療と』

愛情こもる看護・介護』

〒974-0074
兵庫県明石市魚住町清水2744-30
TEL: 078-942-1021
FAX: 078-941-1573
E-Mail: info@athp.jp

ホームページも是非ご覧下さい

● PC・タブレット・スマートフォン
<http://www.athp.jp/>
● 携帯用 (i-mode)
<http://www.athp.jp/i/>



令和3年春号



ごあいさつ

理事長 太田 正幸

世の中、新型コロナで大変です。
今朝、まん延防止等重点措置が宮城県・大阪府・兵庫県4月5日に発出予定です。

1年以上コロナと付き合ってきましたして他の精神科の病院で大きなクラスターが発生したと皆様もご存知だと思いますが、当院では2月に職員全員にPCR検査を行い、全員が陰性という結果を得ることができました。これもひとえに職員の日頃の行いが功を奏したと思っております。

「まんぼう」という言葉を聞きますと私は魚のまんぼうと北杜夫先生のどくとるマンボウ航海記を思い出します。斎藤茂吉先生（父）、斎藤茂太先生（兄）の3名とも精神科医であり小説家です。そういうこともあり親しみを覚えています。これは緊急事態宣言に近いものですので、引き続き3密を避けマスク、手洗いを徹底していただきたいと思っております。

これからワクチン接種も始まります。ワクチン接種をしても基本事項は実行していただきたいと思っております。我々のモットーは患者さんを大切にする。当たり前のことですが最優先にしています。残念ながら精神科の患者さんは変わった人で片付けようとする人もいます。病気ですので治すことができます。また、治療が非常に難しい方もおられますので治療だけでなく心の支えになっていただきたいと思っております。

(2021.4.1 入職式挨拶より)

新型コロナウイルスについて②

院長 財田 一也

季刊誌「みどり」令和3年新年号に引き続き新型コロナウイルス感染症のお話をいたします。

本誌を執筆している5月現在、兵庫県を含む5つの都府県で緊急事態宣言が発令されています。日常生活の様々な場面で自粛や制限を、少なくとも5月31日までは継続しなければなりません。しかしこの1年半の状況を鑑みれば、6月以降に劇的に終息するようには思えないのが正直な感想です。しかし我々医療従事者はこのような状況に対しても覚悟を持って臆することなく「新しい見えない敵」と戦い続けるべく、日常診察業務に従事していることは本誌前号でお話しした通りであります。

細菌は学生時代に理科や生物の実習で使用した光学顕微鏡で観察することができますが、ウイルスは特殊な研究所に設置する電子顕微鏡でしか観察することができません。それ程小さい「新しい見えない敵」から感染を防止する・拡大を防止する方法が「標準予防策」です。あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、これはWHO(世界保健機構)も推奨する方法で①手指消毒、②个人防护具の着用、③院内環境整備、④咳エチケットなどで、この簡単で当たり前の行為・行動が感染防止・拡大防止に大変有効であると証明されています。それゆえ病院業務を行ううえで全職員がこれらの標準予防策を徹底し、ときには病棟ごとに、部署ごとに、あるいは院内全体で標準予防策研修会を行っております。

報道がなされているように医療従事者からワクチン接種が開始されております。当院では4月6日に1回目の接種を開始し、6月2日には当法人内の全職員に2回目の接種が完了します。ファイザー社のワクチンは95%の有効性が確認されていることから、日本中にワクチンが供給されれば現在の感染状況が大きく改善されるのではないかと期待しています。心配されておりましたワクチンによる副反応ですが、痛みなどの軽微なものはありましたが、懸念されておりましたアナフィラキシー反応などの重篤なものはありませんでした。

おそらく5月中旬以降になるとと思いますが、65歳以上の高齢者・基礎疾患を有するかたへの優先接種が開始されます。重い精神疾患のかた（①精神疾患の治療で入院しているかた、②精神障害者保健

福祉手帳を所持しているかた、③自立支援医療（精神通院医療）で「重度かつ継続」に該当するかた）や知的障害のかた（療育手帳を所持しているかた）が含まれており、当法人内で診させていただいている全ての患者様が優先接種の対象となります。安心安全な入院生活・入所生活のためにもワクチン接種のご理解ご協力をお願いいたします。また面会・外出・外泊制限のご協力を引き続きよろしくお願い致します。



精神科デイケア 報告



今、じゃがいもと玉ねぎを育てています。7年ほど前から、野菜を育てる活動に取り組んでいます。1クールは種まき期・生育期・収穫期と2～4か月ほどです。メンバー様と一緒に野菜を育てていると、劇的な効果はありませんが、じわじわと心に良い効果があると感じます。

まず、種まきや水やり、草引きなど、植物を世話して成長を助けるなかで、「自分が育てている」という自尊心や充実感が生まれます。次に「明日は芽が出てるかな?」「大きくなあれ」など期待感を持ちながら、日々過ごすようになってきます。収穫期には「ちゃんと実がなった!」という達成感や喜びが得られます。そして調理では「食べたらすごくおいしかった」など満足感を得ることができます。自分達で作った野菜は愛情が注ぎこまれているので、実際よりおいしく感じるのかもしれません。

野菜を育てている時に感じた自尊心や充実感、期待感、達成感や満足感は人生を彩り豊かにしてくれます。この経験と感覚は、メンバー様の対人関係や社会生活にもいつか活かされるのではないかと考えます。たとえ対人関係や社会生活に活かされなくても、ただ野菜に愛情をかけて育て、心が満たされるだけであっても十分価値あることだと考えます。

